

懇談テーマ1

要望書の回答が市から得られないままになっている事案が多い。
現状を改善するシステムの構築を求める。

【回答】

自治会の皆様から提出される要望書につきましては、市道や農道の拡幅、修繕に関するものが多く、昨年度各自治会から提出された要望書25件のうち、16件が市道・農道に関するもの、5件がカーブミラーや横断歩道の設置に関する要望となっています。

要望書をいただいた後の対応としては、すぐに対応できるものについては、担当課の判断で随時ご連絡を差し上げていますが、市道・農道の拡幅修繕等につきましては、多大な費用と時間がかかる案件が多いことから、事業の見通しが立った段階で担当課から地元関係者の皆様に対し、ご連絡を差し上げているところです。

今後については、事業の見通しのいかに係らず、ご要望をいただいた自治会長の皆様に連絡を行うよう、各課に周知いたします。

また、要望書をご提出いただきました湯津上地区の公衆トイレ改修等については、現在、公衆トイレの維持管理の参考とするため、市内全域の公衆トイレの調査を行っているところです。洋式化の状態や衛生状態、利用頻度などを把握した上で、今後、改修等についてもあわせて検討していきます。

なお、公衆トイレの機器の故障等の簡易な修繕につきましては、公衆トイレを所管する担当課において現場を確認し、修繕可能なものは適宜対応いたしますので、まずは担当課までご連絡くださいますようお願いいたします。

懇談テーマ2

汗子橋の永久橋への掛け替えを要望する。
過疎対策事業債の摘要も含め検討をお願いしたい。

【回答】

汗子橋については、ご指摘のように大水が出ると通行止めとなり、生活道路として利用されている近隣の方々に大変ご迷惑をおかけしています。

橋梁の幅や重量制限があることも認識していますが、市内全域、数多くの自治会等から整備要望があり、早期に改修整備を完了させるよう努力しているところです。

まずは、事業に着手した路線の早期完了を目指すとともに、緊急性などを考慮しながら整備を推進したいと考えており、現時点での汗子橋の整備は難しい状況にありますので、ご理解くださるようお願い申し上げます。

懇談テーマ2（再質問）

木造で危険な橋というのも申し上げたが、橋の欄干の部分がロープで、少し脱輪すると橋から転落する危険性をはらんでいる。

これは安全安心な面から非常に危険性の高い、今現在、事故は起きていないが、事故の起きる可能性が非常に高いと私は認識している。そういう意味で、他の着手した整備が完了するまで検討できないという話だが、まずは計画に盛り込んでいただきたい。

近々やるという話はしないが、過疎事業債が期間が10年と聞いているので、計画に盛り込んで改修していただけないかお願いしたい。

【回答】

橋自体の危険性の問題とか、木造部分の7月から8月に毎年改修しているというような改修時期の問題とか、そういったものについては、すぐに橋自体を架け替えるのは難しいというお答えをしましたが、維持管理的な問題につきましては、担当課の方で検討させていただきたいと思います。

今後の計画については、現時点では難しいということでご理解をいただきたいと思います。

懇談テーマ2（再質問）

安全安心の面からどう考えるのか。

【回答】

安全安心の面から言いますと、欄干の部分がロープではなくて、コンクリート製とかの永久橋で、完全に落下が防止できるような構造が良いとは思いますが、市内全域の橋梁・道路等の整備状況を考えると、どうしてもやむを得ない面もありますので、ご理解をいただきたいと思います。

懇談テーマ2（再質問）

地元住民からもかなり要望が強くて、現在はできないのはわかるが、検討をしていただきたい。昔からあの橋があっずっとそのまま、あの周辺の宇田川橋の上の稲荷橋は、通行量は大して変わらないのに永久橋になっている。

なぜ汗子を取り残されているのか疑問に思うが、それらも含めて相馬市長をはじめ大田原市として再検討をお願いしたい。

【回答】

ご質問いただきました汗子橋に限らず、市内全域の橋梁の設置のあり方等を含めて、今後どのようにするのが望ましいのか検討させていただきたいと思います。

懇談テーマ3

行政財産(道路・河川)の整備指針について

①二輪地区を通る旧村道について、砂利道の舗装要望を出すに当たって市の整備指針上できない理由があるか伺いたい。

②岩川沿いの旧村道の法面の崩れについて、課によって対応が違うため、整備指針について伺いたい。

【回答】

①二輪地区の圃場整備実施区域内の農道については、平成28年度に延長約400mでの舗装工事を実施し、令和3年度には近隣の路線において延長約120mの舗装工事を実施したところです。

要望を出すに当たって整備指針上できない理由は特にありませんが、市では限られた予算のなかで農道の舗装を実施しているところであり、今後もこれまで同様、農道の利用状況や市全体のバランスなどを勘案して整備していきたいと考えていますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

懇談テーマ3（再質問）

利用状況を見てということだが、調査はするのか。実際にどれくらい使っているかというアンケートをとるとか、何か調べることはあるのか。

【回答】

アンケート等については実際には対応させていただいていませんので、確かにどのような利用をしているのかということもあるので、そのような調査も含めながらやっていければと考えています。

懇談テーマ3（再質問）

岩川というのは「頭なしの川」といって水源がなんとなくという川だが、そこは30年くらい前、国の助成金を使って国営事業で土地改良をしたところで、川幅3mくらいの農業用の排水溝があって、両脇をコンクリート塀で仕切っている。それに隣接して簡易舗装の道路が走っているので、その川と道路のところの法面の崩れが問題になっている。

そこは土地改良した結果造られた構造なので、法面の崩れについては土地改良にこれでは困ると話をするが、そうすると土地改良区は市に話をしたりする。

本来ならば、土地改良区は予算があって、その中でできるものはやるということだと思うが、財政的にできない場合は農務課等にお願いする話になり、お金がないからできないという話になる。

法面があって道路がある訳で、法面が崩れれば道路も崩落する。別な切り口で道路課に話をしたところ、すんなりと法面の穴が開いたところに砂利を入れてくれた。

私が言いたいことは、課によって対応の仕方が全然違うということで、要望を出す時には市は色々なことをわかっていて対応してくれるのだろうと思っているが、課によって横並びではなくて温度差がある。

情報の横並びの弊害がこういうところにも出てきているのではないかと思う。横同士のコミュニケーションもお願いしたいと思う。

道路愛護活動、河川愛護活動ということで、自治会長に色々報告せよというものが来ているが、メールでも良いと書いてあるのでメールで送ると返事が返って来ない。

念のために電話で届いていますかと話したら、届いていますという話で、メールを送ると相手が開いたことが確認できるメールが届いていますよねと言われた。

私は機械的な返事を求めているのではなく、メールで送ったら受け取りましたという返信が欲しい。

それが一回ではないので、大田原市の窓口というのは、課長はどのような指導をしているのか。市民の対応。私の思い込みの世界とは違った現実が目の前にある。

普通、話をしたら返事を返すというのは人間として当たり前のことで、コミュニケーションの基礎・基本だ。それができないのは困ったものだなと。縦割りの弊害の部分とかそういうことも含めて期待したいと思う。

【回答】

②行政財産、道路・河川の整備方針についてですが、管理者・利用者、若しくは所有者が管理することが原則であり、整備や修復を要する場合、管理者・利用者、若しくは所有者が必要な措置を講じるものと考えます。

上記事例についてですが、市と土地改良区とで管理区分についての協定を締結している区域もあり、修復が必要になった要因や箇所など案件によって判断する場合があります。

ただし、砂利敷や舗装の穴ぼこの修繕については、市の管理道路以外の道路であっても対応していますので、この点を含めてご理解いただきますようお願いいたします。

懇談テーマ3（意見）

農地水の佐良土の水と緑を守る会という会で8年間、農道や農地等の色々な整備に携わった。地域の方に言われて、我々ができることは我々でとりあえずやろうと。その上でできないことは土地改良区に頼む。それでもダメなものは市に頼む。それでダメだったら県とか国とか色々あると思うが、道路にしても何にしても、国の管轄、県の管轄、市の管轄、それから土地改良の管轄、あとは個人の責任と、このようにいっぱい分かれており、この辺の区割りが明快ではないので、みんな戸惑っているのだと思う。

地域住民と市政とで、本当に話をきちっとしてやっていくことが一番重要だと思うので、お互いもっと勉強してやっていけたら良いなと思っている。

【回答】

意見のため回答なし。

懇談テーマ4

湯津上地区の古墳周辺について、トイレや進入道路などの積極的な整備をお願いしたい。例：ふれあいの丘キャンプ場トイレ、侍塚古墳駐車場トイレ、富士山古墳進入路

【回答1】

トイレの改修については、懇談テーマ1番でお答えしたとおり、市内全域の公衆トイレの改修を現在検討していますので、その中であわせて検討していきたいと考えています。

次に、富士山古墳進入路、市道蛭田36号線については、令和2年度に舗装についての要望書が提出され、現地確認を行っています。

現在は水溜まりができる箇所について砂利敷での対応を行っていますが、今後の整備については、駐車場やトイレなどのインフラ整備の有無、他箇所の整備状況、進捗に合わせて実施していきたいと考えていますので、ご理解くださいますようお願いいたします。

【回答2】

今私は湯津上地区も含めて観光に力を入れてやっていきたいと思っております、区長さんのおっしゃられたように、観光地に行けばトイレがどうなっているのかということでイメージが違うということはわかっているつもりです。

光丸山は全部和式であったり、下侍塚古墳の前のトイレは洋式化にはなっていますが便座に電気が入っていないくて、冬場とても冷たくて使えないと言われているのもよくわかっていますし、笠石神社のトイレについてもどうかなと思っています。

本当に観光で来られた方がこれらのトイレを使われた時に、大田原のイメージはどんなだろうということが基本にありましたので、全市内の公衆トイレの現状がどうなっているかということの調査してくださいということで、市長になってから指示をして、今、調査の途中ということでご理解いただきたいと思っています。

今、洋式化そして便座が暖かいというのは当たり前の世界になっていますし、蜘蛛の巣が張っている公衆トイレではなくて、気持ち良く使えるトイレ。それと、オストメイトトイレ、人工肛門などをつけた方、障害を持った方が使えるようなトイレにして、なかなか観光地を巡れない方にも観光という素晴らしいものを味わっていただきたい。

特に湯津上地区は遺跡・史跡、そういった素晴らしいものがあるので、そういったところに力を入れてやっていきたいと思っていますので、今大田原市内全体の公衆トイレについて調査をさせていただいています。

その結果、早急に対応しなければいけないもの、すでに改修が済んでいるものもありますので、優先順位をつけて整備をさせていただきたいと考えています。

懇談テーマ5

湯津上地区3小学校の統合について、保護者説明会やアンケート調査が進められているようだが、取り組みの現状について伺いたい。

【回答】

本市では、平成26年度に提出された再編整備検討委員会による答申書に沿ってこれまで学区再編や統合を進めてきました。

平成30年度に、親園中学校と佐久山中学校、令和2年度に佐久山小学校と福原小学校の統合が実施されました。

本年度は、湯津上地区の3小学校 湯津上小、蛭田小、佐良土小の統合について、地区の方の意見を聞くということにしています。ご質問の進捗状況についてご説明いたします。

本年4月末ごろから5月上旬にかけて、湯津上地区の3小学校の校長先生、各学校PTA会長・副会長、湯津上各地区の自治会長に保護者説明会やアンケートを今後実施し

たい旨の事前連絡を、お伺いして説明いたしました。

先月の6月21日から23日の3日間、湯津上支所において学校区ごとに保護者説明会を開催しました。

現在、在学中の児童の保護者の方と令和5年度から7年度に入学予定のお子さんを持つ保護者の方にも通知を差し上げました。密を避けるために、各家庭1名としてお願いいたしました。

参加状況については、蛭田小は21人、湯津上小は24人、佐良土小は21人の保護者の方に参加いただきました。

説明いたしました内容は、事前に自治会長に説明いたしました内容と同じ、各小学校の児童数の現状と今後の推移、統合を実施した場合のスクールバスなど統合に向けた配慮などを説明いたしました。保護者の方からは、「統合はいつから行われるのか」などの質問や意見が出されました。

今月に入り、保護者の皆様にアンケートへの協力を依頼し、調査票を回収しているところです。

対象者は説明会にご案内した保護者様と同様で、「統合の賛否」や「その理由」について伺いました。回答にあたっては、説明会の内容を基に、お子様を交えながら各ご家庭で話をして、お答えいただくようお願いしています。

この後、集計を行い、結果を分析していきますが、アンケート結果による多数決で統合の有無を決定することはいたしません。

9月にアンケート結果を保護者の方々や地域の方々に報告し、意見交換を行いたいと考えており、3小学校の統合に関して、保護者や地域の方々の意見を聞きながら丁寧に進めていきます。本年中に、統合するか、見送るかを判断したいと考えています。

今後ともご理解とご協力をお願いします。

懇談テーマ5（再質問）

地域の住民の方で、年間1,500円を払って後援会に入っている方もいる。子どものいない方も1,500円を払っていて、学校の行事にも協力している。

一般の地域住民にもアンケートを取ったら良いのではないかと、そのような話が2件ほど私のところに来ている。

【回答】

地域の方々のアンケートということですが、こちらについてはこれまで統廃合を実施してきた地域の方からもそのようなご意見が出されてきました。

しかし、統廃合というものは子どもさんの教育環境が第一ということで考えていますので、保護者の思いというものを第一に考えていますので、地域住民の方々への説明は丁寧に実施してきましたが、アンケートで地域住民の方々からの統合の賛成反対というようなアンケートというものはこれまでも実施してきていません。

今回についても、地域住民の方へのアンケートの実施は考えていないというところでご理解いただければと思います。